

巻 頭 言

『異文化経営研究』第 11 号発刊にあたって

『異文化経営研究』(Transcultural Management Review) 第 11 号を発行することができ、誠にありがたい。本号には、レフリーによる査読を経て選ばれた研究論文一篇と研究ノート一篇に加えて、招聘論文一篇と研究大会の講演録二篇が掲載されている。発行に至るまで多大なご尽力をいただいた執筆者や編集者をはじめ、関係者の皆さまに心より御礼を申し上げる。

さて、前年に創設した学会賞を 2014 年(本年)にも授与することができた。今回は研究発表部門のみならず、当学会としてはじめて、著書部門の受賞があり、喜ばしい限りである。

これまで行ってきた東京における研究会を、本年より「研究大会」という名称に変更し、大会としての位置づけを明確にした。また、地域部会に関しては、第一弾の九州部会に続いて、中部部会と関西部会が設立された。それぞれの特色を生かして発展することを期待したい。今後は北陸などにも地域部会の可能性を探っていきたい。さらに、すべて英語で行う国際セッションもすでに 3 回開催され、定着しつつある。毎回、30 名強の参加があるが、これは当学会の国際性を物語るものであろう。

昨今の世界の動き、特にテロの深刻化を目の当たりにし、本学会設立の精神を改めて思い起している。すなわち、2003 年の設立趣意書にあるように、グローバリゼーションはビジネスのみならず、社会の隅々にまで広がりつつあるが、その反面、国や民族や宗教や地域や、個人の間で、文化がぶつかりあい、摩擦を生んでいることも事実である。オーケストラが様々な楽器で音楽を生み出すように、ジャズのセッションがコード進行は同じでも、それぞれが自由なフレーズを奏でて共演するように、様々な価値観を越えて、人々が手を携えてよりよい地球を作り出していくことが、ますます求められていると感じる。大自然もまた、そのような人類のあり方を喜ぶのではないかと思う。

これからも、異文化経営を通じて世界に貢献することができるよう、会員の皆様とともに歩んでいきたいと切に願っている。

今後ともご支援を賜りたく、お願い申し上げます次第である。

2014 年 12 月
異文化経営学会 会長
馬 越 恵 美 子